

第6学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書くことに課題がある。 説明文・物語文の内容や要旨をとらえながら読み取る学習に課題がある。 既習漢字を習得し、活用するまでには至らない児童への手立てが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を分かりやすく伝えるために、相手や目的を意識して書くための力を付ける指導が大切である。 文章の内容を的確におさえて要旨をとらえ、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、読む力を付けるための指導が必要である。 学習した漢字を意識して使うように習慣付ける指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 起承転結や始め・中・終わりなどの構成を意識させる。冒頭部や終結部の書き方を工夫するように課題や日記の良い書き方を紹介するなど表現方法を広げる指導をしていく。 筆者の思いや考えが分かる言葉や文章にサイドラインを引き、読みの手掛かりとする。普段から文章に親しむために、読書活動や音読活動を家庭とも連携して進めていく。 小テストの裏に既習漢字を使って文章を作る学習を取り入れるなど、日常的に漢字を活用する学習を継続的に行い、習慣化できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題に合わせて資料を効果的に活用する力に課題がある。 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に適した方法で調べる力やまとめる力を身に付ける指導が大切である。 社会的事象が起こった背景やその後の変化等について、考えさせる指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に合わせた効果的な資料の活用方法を指導するとともに、その資料を用いて自分が調べたことを工夫して分かりやすくまとめ、発表する授業を展開する。 社会的事象の歴史的背景やその後の変化等を想像し、考えたことをもとに話し合う活動などを積極的に取り入れ、様々な視点を身に付け、多角的に考えられるよう指導をしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算や図形などの基礎学力について課題がある。問題解決にかかる時間に個人差がある。 文章問題など既習事項を活用する問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習を進め、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着を図ることが必要である。 問題で何を問われているかをしっかりと捉える指導が必要である。また、問題解決の過程を理解できるように指導することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の中で、児童の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、習熟度に応じて基礎的・応用的な問題に慣れさせ、反復練習をする。ユニットの時間等を活用して、個別指導を充実させていく。 東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。 問題把握、自力解決、集団解決において言葉・図の表現を豊かにして理解や共有することを大切にする。 問題解決的な学習に取り組む中で、友達の考えを知り、自分の考えを深め、習熟させるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象の変化や働きをその要因や規則性、関係に着目して追究する課題に対して、自らの生活経験や既習の知識と結び付けて予想したり、考察したりする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察などを充実させ、問題解決を図る学習を積み重ね、既習の知識を活用して結果を考察することで、科学的な見方や考え方の育成を図る指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果を予想や仮説と比較・検討すること、他の児童の考察を比較・検討することで、多面的に考え、より妥当な考えを作り出せるようにする。 自然園等を活用し、自然に親しむ活動や体験活動、制作活動を導入時や活用の場面等で積極的に取り入れる。

音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力が豊かであり、歌唱活動では楽曲にあった歌声で表現する様子も見られる。しかし、口を大きく開けて歌う児童は少なく、表現に対する意識には個人差がある。器楽に関しては、楽しみながら演奏をする様子が見られるが、楽曲にふさわしい音色で表現することに課題がある。 ・鑑賞に関しては、楽曲の構造や特徴を分析的に聴くことができる。しかし、楽曲から感じ取ったことを文字や言葉で表現することが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、声を合わせて歌うことの楽しさを体験できるようにする。また、基本的な発声法を学び、自信をもって表現できるようにする。器楽では、基本的な奏法を学び、音色について理解を深める。その楽曲にあった音色を考え、表現の工夫につなげる。 ・音楽の諸要素と関連させた聴くポイントを明確にもたせてから、聴く活動に取り組む。また、感じ取ったことを発表し合い、友達と意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい発声法や奏法が身に付くように、簡単な演奏から取り組ませていく。声を合わせる楽しさを味わえるよう、和音の響きやパートの役割を感じられる教材を取り入れる。また、のびのびと歌うことができるような雰囲気づくりや、授業展開を工夫する。演奏家の音源や映像などを活用し、楽曲にふさわしい表現で演奏することに対する意識を高める。また、教師の範奏や、よい表現をしている児童の演奏を聴かせることで、楽曲にふさわしい表現をするための奏法の工夫について考えさせる。 ・聴くポイントを絞り、漠然と聴くことのないような授業展開やワークシート等を工夫する。ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達と意見を交流する中で、考え方や言語活動を広げていく。
図 工	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくのびのびと活動することができている。全員が作業に集中し、落ち着いた学習態度で授業に取り組むことや、個に応じた支援に課題のある児童が見られる。 ・材料の特徴や構成の美しさなどを考えながら、表し方を構想し、工夫して表すことに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図工室のルール of 意義を理解し落ち着いて制作に集中できる環境づくりが必要である。 ・様々な作品から材料の特徴や構成の美しさを感じ取り、自身の制作に生かせる経験を積み重ねる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての取り組みを意識できるよう、日頃より言葉をかけていく。図工室のルールの意義を繰り返し確認する。また子供たちが集中して「つくりたい」と思える導入から完成まで達成感を感じられる工夫を行う。また自画像制作に向け、描画材を適切に扱う技能も伸ばしていく。 ・美術書やICT機器を活用し様々な作品に触れたり、話し合ったりする機会を通し材料の特徴、構成の美しさ、用途などを考える内容にする。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に家庭科への関心は高く、裁縫や調理実習に、前向きに取り組む児童が多いが、学習した知識や技能を実際の生活に活かす力は十分とはいえない。 ・授業への取り組み方に、少しずつ個人差が出てきているので、興味や関心をもたせる手立ての工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい家庭生活を送るために、衣食住に関する知識や理解を深め、自分で実践しようとする態度を育てることを大切にする。 ・技能の定着を図るために一人一人が主体的に取り組める活動を工夫することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を明確にし、一人一人が達成感を味わえるような活動を工夫することで、実際の家庭生活に活かしたいと思えるようにする。 ・実習では、カードや作品の見本などを使って手順や役割を明確にし主体的に取り組めるようにする。 ・技能面で差の出やすい活動は、個別に支援をすると同時に、子ども同士で教え合う機会を作り、問題解決が図れるように工夫する。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・どの単元でも意欲的に運動に取り組む児童が多いが、めあてを明確にもたずに運動している児童への手立てが課題である。 ・それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性(楽しさ)を十分に 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適しためあてをもたせ、その目標に向かって学び合いながら活動を進めていく指導が必要である。 ・指導者が個々の児童の特性を理解し、練習の時間に技能ポイントや動き方を示し、友達 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での重点をスモールステップで示し、ペア・トリオ、チームやグループでの教え合いを活発にする。そのために学習カードを活用し、めあてと振り返りをしながら運動できるようにする。 ・運動がもつ楽しさを味わえるような個々の児童の能力に応じたスモールステップの場の設定や補助運動から主運動につなげる展開を考えるよ

	<p>味わえない児童への手立てが課題である。</p>	<p>同士の教え合いを活発にさせることが大切である。</p>	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達同士の教え合いを重視し、互いに見合う中で技能を高め合えるようにする。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習課題がはっきりしないまま学習が進んでしまふ児童への手立てが課題である。 調べたり、体験したことを実際の生活に結び付けてまとめたり、行動したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査など、既習の学習を基に、実社会や実生活と結びつけて課題を見いだすことが大切である。 調べ学習では、発表する相手を意識させ、それに適した表現方法を選択してまとめることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する事柄が児童にふさわしい探究課題であるか検討し、年間指導計画と総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習となるよう学習計画を立てる。その際に、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなど、考えるための技法を活用し、自分の考えをもつことができるよう指導する。 探究的な学習の中で、学んでいることが実社会や実生活でどのように生かされ、生きて働く力になるか考えたり、社会と積極的に関わっていく態度を養うために、社会参画をしていく意識や意義を共に考える。 まとめ学習に入る段階で、最終的に発表する相手を決めて、目的意識をもって課題を追究させる。必要に応じて表現方法を提示し選択させるなど他教科の学習と関連付けて指導する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にコミュニケーションを図れるようにするための児童への手立てが課題である。 指導内容（コミュニケーション・異文化理解）のバランスの工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでもコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。 本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかを分かるように、授業の工夫をすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティを通して、会話表現に対する関心意欲を高めて取り組む。その際に活動の意図を理解した上で取り組めるようにする。 会話表現を使ってゲームを行うときは、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定して行う。 学習のめあてや自己評価の振り返りカードを活用する。相互評価では友達同士で認め合い、「自分もがんばろう」「友達に認められたい」という前向きな思いをもたせるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> よりよくあろうとする気持ちはあるが、そのためにどうしたらいいのかと深く考える経験は少ない。 道徳的実践力の育成に不十分な点が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの思いや考えを投影できる教材と出会わせることが大切である。 友だちの考えに共感したり比較したりすることを通して、自分と違う思いも理解できるようすることが大切である。 教材で考えた事を、自らの生活の中でも生かしていこうとする気持ちを高めていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分に教材の内容が理解できるよう、適切な資料提示や細かな補助発問に心がける。 自らの思いを自由に発言できる雰囲気づくりや、友達の意見からも素直に学ぼうとする態度の育成に努める。 1時間毎の授業で感じたり学んだりしたことを、毎回ワークシートに書くことで自分の考えや思いを整理する。またファイリングすることで自分の考えや思いの変容にも気付けるようにする。